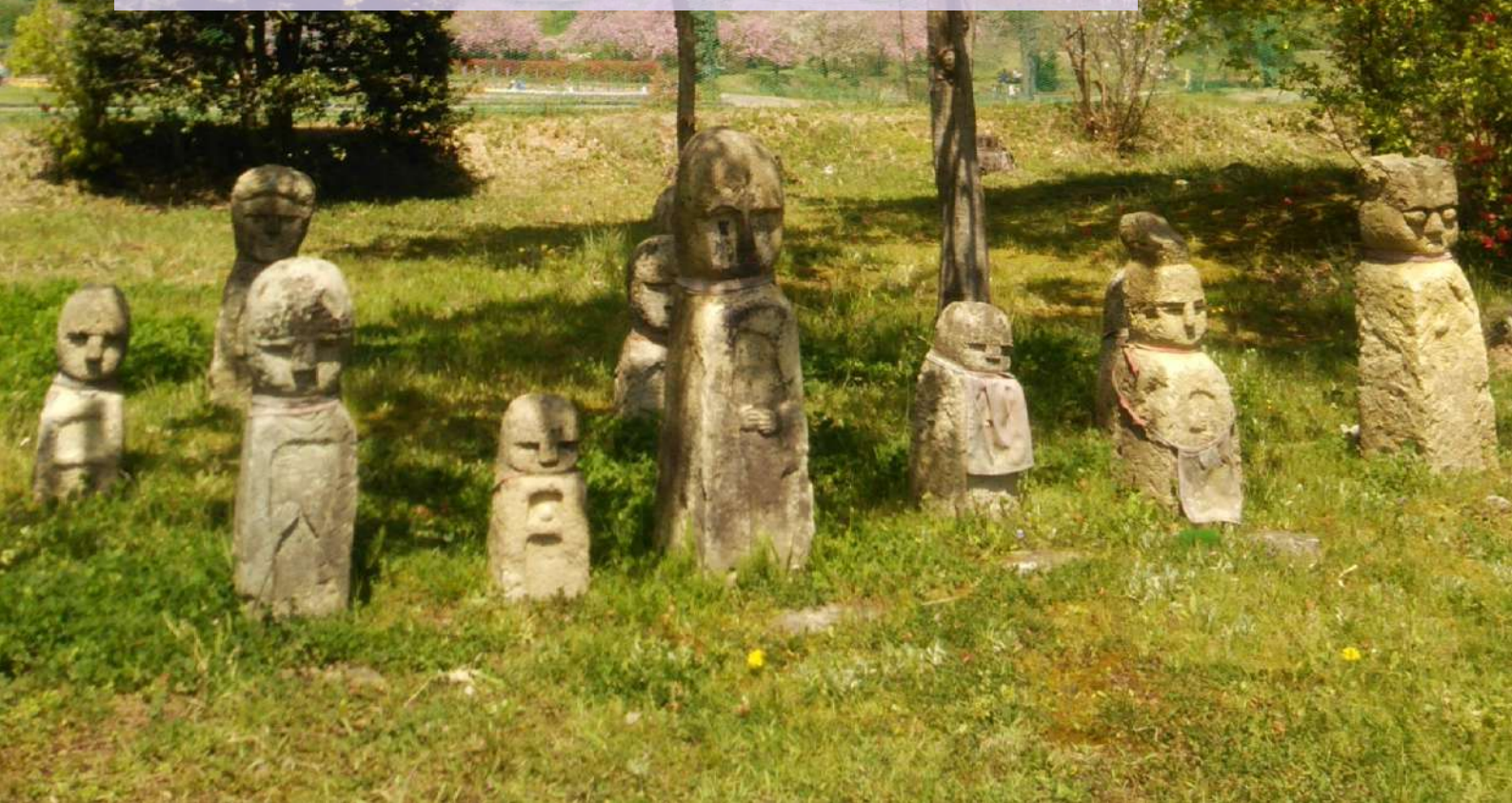


西光

第179号 お盆号
令和元年7月1日発行

浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺 住職 大塚靈閑
〒671-0101 姫路市大塩町229番地
TEL: 079-254-0351 FAX: 079-254-4142

- 【2】 靈閑だより
子は親の鏡
- 【3】 気になる
なぜお膳が二つ…？
- 【4】 お盆のはなし セガキ…？
- 【5】 西光寺歴代住職の墓のこと(後編)
役員のご去就・寺子屋・ご逝去の報、門前掲示板より
- 【6】 お盆の各種行事
棚経・施餓鬼会のご案内



霊閑だより

子は親の鏡



この六月で三十六歳になりました。僧侶になったのが二十八歳になる年でした。お釈迦様も二十九歳で出家されています。人生の転機の時期が同じで、勝

手に親近感をおぼえています。お釈迦様は六年間の修行を経て、三十五歳で悟りをひらかれています。そして私もついにその歳を越えてしまいました。この八年間の間に結婚、出家、二人の子の誕生、父親の死、就職就任と様々な事がありました。中でも子供の誕生と親の死というのは大きな出来事でした。最近の子供の虐待のニュースには本当に心を痛めます。また逆に子供が親に暴力をふるい、しまいには父親に殺されるという事件もありました。

これらの原因は、仏教の最大のテーマでもある「苦」にあるように思います。「この苦」「苦しみ」というのは、言い換えれば、自分の思い通りにならないことです。

私の子供も五歳と三歳になりました。口が達者になり、へりくつやわがままを言いだすと、本当に手を焼くことがあります。子供は自分の思い通りにいかないから泣く、反抗する。親は自分の思い通りに子供が言うことを聞かないから怒る。両者とも「苦」を抱えています。ふと、自分も子供も全く一緒じゃないかと気づくのです。相手が自分の思うように動いてくれるわけがありません。冷静に考えてみると、思い通りにいかないことが圧倒的に多いことに気づきます。子は親を映す鏡とは言いますが、子供に対すると、今まで身を潜めていた自分のアラが、自分でもびっくりするほど次々と出てくるのです。短気、すぐ怒る、すぐダメだと言う、適当に返事をしてgo on...等々。

そんな時、ドロシー・ロー・ノルトという方の『子は親の鏡』という詩に出会いました。自分への戒めを込めて紹介させて頂きます。

『子は親の鏡』ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげた家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育つと、子どもも不安になる
「かわいそうなんだ」と言いつて育つと、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引つ込みじあんな子になる
親が他人を羨んではかりいと、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない



誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育つば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

うしろのり

曹洞宗を開かれた道元禪師は、人を導くにあたって、四つの指針があるといひます。布施・愛語・利行・同事の四つ(四摂事)です。

布施は、みかえりを求めることなく何かを与えること。

愛語は、やさしいことばをかけてあげること。

利行は、その人のためになることをすること。

同事は、同じ立場に立つて一緒に喜び一緒に悲しんであげること。先の詩はまさにこの四摂事そのものです。言ひは易く行ひは難いですが、子供に限らず、誰に対しても心がけたいものです。

気になる…



お膳がなぜ二つ…？

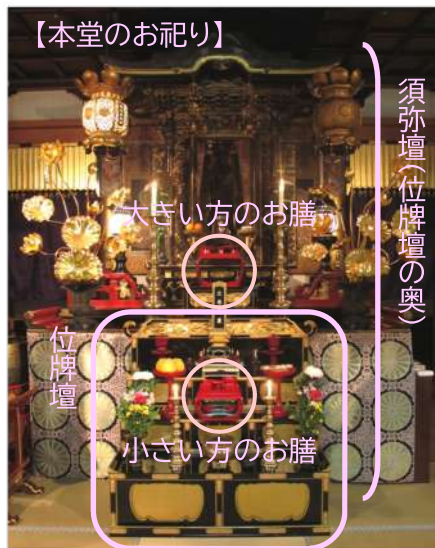
今回のテーマは、法事などの際に、「ご飯やおかずを盛りつけ仏前にお供えするお膳(霊供膳)についてです。このお膳ですが、大きいものと小さいもの二つあるけれどなんでだろう?」と思われることはないでしょうか。なんとなく昔から二つあるから二つお供えしているという方、場所も限られているしその内の一つだけ使っているという方、それぞれだと思われまます。最近のコンパクトなお仏壇には最初から一つだけしかついていないかもしれません。

「このお膳が二つある意味については、諸説あるようですが、私が採用したいのは、やはり一つは仏さま用(ご本尊の阿弥陀さま)で、もう一つはご先祖用(法事であれば本日も供養する方)というものです。大きい方のお膳が仏さま用、小さい方のお膳がご先祖用です。

西光寺では、お膳をお供えする際、大きいお膳は、仏さま(阿弥陀さま)をお祀りしている須弥壇じゆみだんと呼ばれる奥の一段高い場所にお供えします。皆様のお仏壇でいえば、ご本尊をお祀りしている一番上段のスペースです。そして小さいお膳は、須弥壇の手前のお位牌を置く位牌壇いはいはだんと呼ばれる場所にお供えします(本堂での法事の際はお待ち頂いた位牌をここに置きお勤めします)。皆様のお仏壇でいえば、一段目より下のスペースです。お寺の本堂では、空間的に余裕があるので、お祀りしている仏さまやお位牌の正面にお膳を置けます。つまり正面からみて、ちょうど中央に前後一直線におけます。本来であれば、このようにご本尊やお位牌の正面にお供えしたいところです。しかし皆様のご家庭のお仏壇では、ご本尊の前にお膳を置く十分なスペースなどないかと思えます。ですので、仏壇の一番下段の広いスペース、下段の引き出し部分、または菓子や果物などをお供えする台や小机に置かれるとよいかと思います。その際の並べ方は、上座である向かって右側に大きい仏さま用、下座である向かって左側に小さいご先祖用とされるのがよいかと思います。

一つしかお膳がない場合は、新たに買い足してまでは結構ですが、「仏壇は、やはりご本尊の仏さまが主であり、その世界(お浄土)に位牌という形でご先祖が住人として住まわせて頂いているという形ですので、気持ちの上でご本尊(阿弥陀仏)の存在をお忘れなきよう。

【本堂のお祀り】



右図のようにお寺の本堂では、お膳だけでなく、ロウソク・花・香炉(線香立て)・お供え物なども、須弥壇のご本尊の仏さま用と位牌壇のご先祖用に二セット用意しています。

セガキ……？

今年もお盆の時期がやってきました。遠い所にいる子供や孫が帰省するのと同じく、ご先祖もあの世から帰省される季節です。このお盆の時期に、全国のお寺で行われるのが、施餓鬼という行事です。「餓鬼に施す」と書いて、セガキと読みます。文字面をみているとなにやら不気味な感じがしますが、一体何のためにする行事なのでしょう。

施餓鬼の由来はというと、約二千五百年前のインド、お釈迦様がいらした時代にまでさかのぼります。お釈迦様の弟子に阿難という方がいました。阿難はお釈迦様の十大弟子の一人で、常にお釈迦様の傍に仕え、もっともお釈迦様の説法を聞いていた人物です。その阿難が修行中、餓鬼が現れ「おまえは三日後に命が尽き、餓鬼に生まれ変わるのだ」と宣告されます。びっくりした阿難は、助かる方法はないのかと餓鬼に尋ねると、餓鬼は「救われたければ、無数の餓鬼に飲食を施せ」といいます。

無数の餓鬼に飲食を施せといっても、そのやり方が分からない阿難は、お釈迦様に教えを請います。するとお釈迦様は「施餓鬼棚を設け、海のもの山のを供えて、多くの僧に供養してもらいなさい。そうすれば、無数の



餓鬼に飲食を施すことができる」と説かれました。この少量の食べ物も無量の食べ物に変えられお経が、陀羅尼というもので、お盆参り(棚経)の時にあげさせて頂く一風変わったあのお経です。

そんなこんなで、無数の餓鬼に食べ物を与えることができた阿難は餓鬼の世界に墜ちることなく、寿命を永らえることができたというお話です。ちなみに阿難は当時ではかなり長寿だと思われませんが、八十八歳まで生きられました。

以上が施餓鬼会の由来ですが、西光寺でも八月七日、十六日にこの施餓鬼を行っています。先に書いたように、まさに「施餓鬼棚を設け、海のもの山のを供えて、多くの僧に供養してもらおう」という法要です。

この由来からすると施餓鬼は、自身の延寿を願うものですが、今日ではご先祖、無縁の諸霊、一切の生物の供養のために行う法要として定着しております。



西光寺の施餓鬼棚

西光寺歴代住職のお墓のこと(後編)

前回の『西光』にて西光寺の歴代住職のお墓の整備を進めているご報告をさせて頂きましたが、この度は完成と納骨のご報告をさせて頂きます。

去る三月十四日、先代の三回忌を迎えるに先だつて、初代〜十八世までの歴代住職のお墓、並びにこの度新しく建立しましたお墓の開眼供養を行い、同時に先代住職の納骨も併せて行いました。従来のような住職一代墓ではないので、戒名板を作り、そこへ戒名、没年月日、行年を刻むようにしました。



整備前



整備後



開眼・納骨のお勤め



手前が新たに建立した墓と戒名板

【西光寺役員のご去就】

この度、東ノ丁の男性世話人として、湯谷章さんに就任頂くことになりました。これから各種行事等でお世話になります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【ご逝去の報】

生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

- 西ノ丁 魚田千江子さん
三月三十日没 九十九歳
- 東ノ丁 荒木花子さん
四月十八日没 百二歳
- 中ノ丁 八嶋正尚さん
五月二十九日没 八十四歳
- 東ノ丁 赤尾しず子さん
六月六日没 百三歳
- 東ノ丁 山本忠雄さん
六月十七日没 九十六歳
- 中ノ丁 生嶋昭一さん
六月二十三日没 七十八歳

【寺子屋】



【今後の予定】

七月二十九日(月)

八月はお休み

九月十七日(火)

いずれも午後一時半〜三時まで

門前掲示板より

- 四月 食べられる一粒の米と 食べる私は絶対的に平等です
- 五月 もう自分ひとりの幸せを願う時代は終わった
他の人が幸せでなくて どうして自分の幸せがあり得よう
- 六月 仏さまにお願ひごとをする人は多いが
仏さまが私に何を願われているのか 気づく人は少ない
- 七月 過ちを改めざる これを過ちという

八月のお盆参り(棚経)・諸行事のご案内

八月のお盆参り(棚経)は、例年通り地域毎に順次お参り致します。尚、八月のお逮夜参りはお休みを頂きます。どうぞご理解の程宜しくお願い申し上げます。

- 一日(木) 大阪府内棚経
- 二日(金) 加古川・加古郡・明石・神戸(垂水)棚経
- 三日(土) 飾磨救鱗寺施餓鬼会
- 四日(日) 姫路市内(飾磨・夢前方面)棚経(午後)
- 五日(月) 神戸(垂水・須磨・長田・兵庫)棚経
- 六日(火) 神戸(西区・北区・中央区・灘区)・芦屋・西宮棚経
- 七日(水) 姫路市内・太子棚経
- 八日(木) 当山 永代施餓鬼会 六時
- 九日(金) 高砂市内棚経
- 十日(土) 曾根 蓮華院施餓鬼会
- 十一日(日) 東ノ丁地蔵堂 四万六千日観音会
- 十二日(月) 的形、木場、八家、東山、白浜棚経(七時)
- 十三日(火) 西浜 西岸寺施餓鬼会
- 十四日(水) 大塩町内棚経(中ノ丁・西ノ丁)六時
- 十五日(木) 大塩町内棚経(東ノ丁・宮本丁)六時
- 十六日(金) 荒井 観音寺施餓鬼会
- 十七日(土) 当山 一般大施餓鬼会 六時
- 十八日(日) 地蔵盆(的形岩鼻・大塩各丁の地蔵堂参り)八時



一般大施餓鬼会

八月十六日(金)午前六時

(受付は十一時十五分まで)

回向料は一霊につき三千円です。

※個別の霊位に加え、〇〇家先祖代々も

お申し込み頂けます。

どうぞご家族皆様でお盆のご先祖供養にお参り下さい。塔婆回向のお申込みは、前日までに寺までお申込み下されば幸いです。他所の方は、当日もしくは棚経の時間にお預かり致します。ご不明な点がありましたら、お気軽に寺までお問い合わせ下さい。

永代施主家の皆様へ

永代施主家には別途ハガキにて、永代施餓鬼会のご案内させて頂きます。他所地域はこの『西光』に同封しておりますので、ご確認下さい。

永代施餓鬼会 八月七日(水)午前六時

(受付は十一時三十分まで)